教育ヴィジョン研究センター研究拠点創成フォーラム資料

「国際バカロレア DP『歴史』に学ぶ史資料の批判的研究方法の獲得に焦点化した探究型歴史学習」

指定学習項目３

世界規模の戦争への動き

【教師用ガイド】

事例研究１　東アジアにおける日本の拡張政策

広島大学

「IB の理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究」チーム

歴史教育研究グループ

2020 年 2 月

指定学習項目 3

世界規模の戦争への動き

事例研究 1

東アジアにおける日本の拡張政策（1931-1941 年）

HIROSHIMA UNIVERSITY

広島大学「IB の理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究」チーム歴史教育研究グループ

広島大学「IB の理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究」チーム歴史教育研究グループ

広島大学大学院教育学研究科	教授	棚橋 健治	（研究代表）
広島大学大学院教育学研究科	博士課程後期	宅島 大尭	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程後期	両角 遼平	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	青本 和樹	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	植野 裕行	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	久保 美奈	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	篠田 裕文	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	奥村 尚	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	孫 玉珂	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	高松 尚平	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	玉井 慎也	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	原田 歩	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	藤岡 柚衣	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	真崎 将弥	
広島大学大学院教育学研究科	博士課程前期	渡邉 竜平	
広島大学大学院教育学研究科	専門職学位課程	山田 夏子	
広島大学大学院教育学研究科	専門職学位課程	荒木 詩織	
広島大学大学院教育学研究科	専門職学位課程	田中 亮太	

本研究は，日本学術振興会の以下の科学研究費助成事業として実施しました。

基盤研究（A）（一般）課題番号 17H01028 （2017 年度～2021 年度）

「IB の理念を踏まえたカリキュラム・授業・評価の開発的研究」（研究代表者：棚橋健治）

また，以下の学会口頭発表内容を基に，いただいたご指摘やご助言を踏まえて作成しました。

・青本和樹・植野裕行・久保美奈・篠田裕文・山田夏子・棚橋健治（2018）「ＩＢＤＰ「歴史」における「指定学習項目」の授業開発－歴史学習における史資料の読解・分析の一例として－」，全国社会科教育学会第 67 回全国研究大会，2018 年 10 月 21 日，山梨大学
・玉井慎也・高松尚平・真崎将弥・渡邉竜平・奥村尚・孫玉珂・荒木詩織・田中亮太・原田歩・藤岡柚衣・棚橋健治「史資料の批判的研究方法の獲得に焦点化した探究型歴史学習（１）―IBDP「歴史」における「指定学習項目」単元の開発原理―」，全国社会科教育学会第 68 回全国研究大会，2019 年 11 月 10 日，島根大学
・玉井慎也・高松尚平・真崎将弥・渡邉竜平・奥村尚・孫玉珂・荒木詩織・田中亮太・原田歩・藤岡柚衣・棚橋健治「史資料の批判的研究方法の獲得に焦点化した探究型歴史学習（２）―IBDP単元「東アジアにおける日本の拡張政策」のレッスンプラン―」，全国社会科教育学会第 68 回全国研究大会，2019 年 11 月 10 日，島根大学

序

本共同研究は，グローバル人材の育成に対する要請が高まる今日の日本において，そのひとつの有効な方策として注目されるインターナショナル・バカロレア（IB）の普及・拡大に向けた新たな動きである日本語ディプロマ・プログラム（DP）の導入を受け，科目「言語と文学」「歴史」「科学」「美術」のモデルカリキュラム・授業・評価の開発を行うものです。本教師用ガイドは，その中の歴史教育研究グループが作成しました。

このガイドは，現在，急速に拡大しつつある IB 認定校で使用していただくことを念頭に作成しています。そのため，IB 機構が発行している『「歴史」指導の手引き』『「歴史」教師用参考資料』をはじめとする諸文献，公表されている外部評価問題そして先行する外国において発行されているテキスト等を参考にして，IBDP 歴史のカリキュラムにそのまま組み込めるように作成しました。お試しいただけましたら幸いです。

しかし，このガイドは IB 認定校だけのためのものではありません。グローバル人材育成の牽引役となる IB 認定校やスーパー・グローバル・ハイスクールのみならず，それらを含むすべての日本の学校の各教科教育をグローバル社会で活躍できる資質･能力の育成に対応したものへと改善することに寄与したいという思いで作成しました。

IB 教育の特色である多様性の認識とそれを受け入れる寛容性，自律的な判断，発信力の育成とそれを可能にする学習者主体で参加型，協働的な学習は，長年議論されながら，充分実現していなかった探究的授業が可能になり，日本の学校の根本的変革につながると私たちは考えています。歴史教育の場合，所属する社会への帰属意識育成の有効な手段として，洋の東西を問わず活用されてきましたが，その問題性が指摘され，その克服のためのさまざまな研究とそれに基づく提案もなされてきました。本研究は，歴史教育改善の根拠をグローバル社会において求められる資質・能力の視点から構築し，それを実現するカリキュラム・授業という形で具体化することを目的としています。その結果，自らの所属する社会の優越観を植え付ける歴史教育からの根本的転換が図られ，グローバル人材の育成に大きな寄与ができるのではないかと考えています。

従いまして，IB 認定校以外の日本の学習指導要領に従って日々の授業を行っているたくさんの学校でも使っていただけることを期待しています。必要とする時間数などを考えると，このガイドをそのまま使おうとすると無理なところもあるでしょう。しかし，このガイドが提案しているレッスンの特質は，これからの日本の歴史教育で，今，求められていることに対するひとつの答を示していると考えています。歴史家は，なぜ，どのようにしてこのような歴史像を作り上げているのか，自分はそれに賛同できるのか，それはなぜか。新たな事象に対して，自分はなぜ，どのようにしてその事象を解釈して歴史像を造るのか。このような探究的な歴史の学びを実現するものとして，このレッスンプランを提案します。この提案が IB 認定校，一条校を問わず，歴史の学びの改善に繋がることを期待します。

【目次】

第１部：IBDP「歴史」における「指定学習項目」とは？（pp.１―17）

１―１．「指定学習項目」単元の位置づけ（pp.２―３）
Ｑ１：「指定学習項目」は，IBDP「歴史」のどこに位置づいているのか？

１―２．「指定学習項目」単元のねらい（pp.４―７）
Ｑ２：「指定学習項目」は，どのような学びを目指し，何を評価するのか？

１―３．育成する４つのスキル（pp.８―15）
Ｑ３：「指定学習項目」を通して，何ができるようになるのか？

１―４．教材研究のポイント（pp.16―17）
Ｑ４：どのように教材を収集・選択・加工・配列するか？

第２部：単元「東アジアにおける日本の拡張政策」の開発（pp.19―84）

２―１．単元の全体構造（pp.20―29）
Ｑ５：事例研究１の全体構造と第２次のレッスンプランは，
どのような関係になっているか？

２―２．１時間目のレッスンプラン（pp.30―42）
Ｑ６：日本の拡張政策の要因は日本の経済状況にあるのか？

２―３．２時間目のレッスンプラン（pp.44―56）
Ｑ７：日本の拡張政策の要因は日本の政治状況にあるのか？

２―４．３時間目のレッスンプラン（pp.58―74）
Ｑ８：日本の拡張政策の要因は中国の政情不安にあるのか？

２―５．４時間目のレッスンプラン（pp.76―84）
Ｑ９：日本の拡張政策の要因は何と言えるか？

第３部：レッスンプランで使用する資料（pp.85―104）

●◆● 第Ⅰ部 ●◆●

IBDP「歴史」における「指定学習項目」とは？

――単元を作っていく際の拠り所――

Ⅰ―１．「指定学習項目」単元の位置づけ

Ｑ１：「指定学習項目」は，IBDP「歴史」のどこに位置づいているのか？

Ⅰ―２．「指定学習項目」単元のねらい

Ｑ２：「指定学習項目」は，どのような学びを目指し，何を評価するのか？

Ⅰ―３．育成する４つのスキル

Ｑ３：「指定学習項目」を通して，何ができるようになるのか？

Ⅰ―４．教材研究のポイント

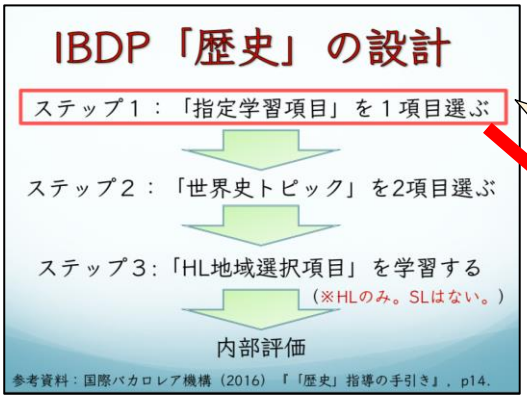
Ｑ４：どのように教材を収集・選択・加工・配列するか？

●◆● Ｉ―Ｉ ●◆●

「指定学習項目」単元の位置づけ

――Ｑ１：指定学習項目」は，IBDP「歴史」のどこに位置づいているのか？――

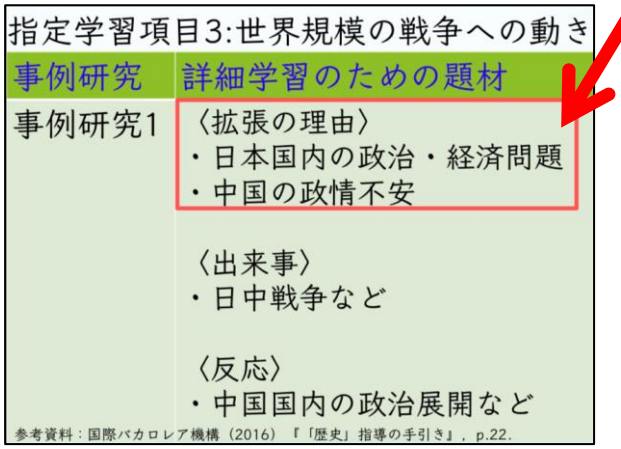
【IBDP「歴史」の全体像】



【IBDP「歴史」指定学習項目単元の全体像】

１．軍事指導者
１－１．チンギス＝ハン
１－２．イングランド王リチャード１世
２．征服とその影響
２―１．スペインのイスラーム統治の最終期
２－２．メキシコとペルーの征服
３．世界規模の戦争への動き
３―１．東アジアにおける日本の拡張政策
３―２．ドイツとイタリアの拡張政策
４．権利と抗議運動
４―１．アメリカ合衆国の公民権運動
４―２．南アフリカのアパルトヘイト
５．紛争と介入
５―１．ルワンダ
５－２．コソヴォ

【本研究の開発単元】



指定学習項目3:世界規模の戦争への動き	
事例研究	詳細学習のための題材
事例研究1	〈拡張の理由〉 ・日本国内の政治・経済問題 ・中国の政情不安 〈出来事〉 ・日中戦争など 〈反応〉 ・中国国内の政治展開など

参考資料：国際バカロレア機構（2016）『「歴史」指導の手引き』，p.22.

(1)IBDP「歴史」における「指定学習項目」の位置づけ

IBDP「歴史」のカリキュラムの対象は，16歳から19歳までの生徒です。つまり，日本では，高校１～３年生に該当する年齢の生徒を対象として，IBの理念を踏まえた歴史教育実践を展開していきます。まずは，カリキュラム構成から，IBDP「歴史」の特質を見てみましょう。

IBDP「歴史」のカリキュラム構成は，国際バカロレア機構が2016年に作成した『「歴史」指導の手引き』（以下，『指導の手引き』）で確認が取れます（p.16）。これは，日本で言うと「学習指導要領」に当たるものです。『指導の手引き』を見ると，４つのステップによりIBDP「歴史」が設計されていることがわかります。

まず初めに，ステップ１として「指定学習項目」を１項目選び，指定された事例研究を２つとも取り上げます。配当時間は，事例研究ごとに20時間，つまり，計40時間です。

次に，ステップ２として「世界史トピック」を２項目選び，教師が自身の裁量で事例を取り上げます。配当時間は，項目ごとに45時間，つまり，計90時間です。

さらに，ステップ３としてHLの生徒のみを対象とした「HL地域選択項目」を取り上げます。配当時間は，90時間です。

最後に，ステップ４として，HLの生徒，SLの生徒ともに内部評価課題である「歴史研究」に取り組むことを指導します。配当時間は，20時間です。

以上のように，「指定学習項目」は，IBDP「歴史」の中で初期段階に探究する単元として位置づいています。初期段階に行う単元だという位置づけに注目すると，IBDP「歴史」の学びを探究する上での基礎的な資質・能力を身につけ，その後の単元での歴史探究に活用できる「歴史的な見方・考え方」も養っていく役割が「指定学習項目」単元にあることがわかります。これは，後述の「１―２：単元のねらい」で詳細に見ていくこととします。

(2)本研究が開発した単元「東アジアにおける日本の拡張政策」の位置づけ

本研究が開発した20時間分の単元「東アジアにおける日本の拡張政策」は，「指定学習項目３：世界規模の戦争への動き」における「事例研究１」に位置づきます。また，本研究が開発した４時間分の小単元「東アジアにおける日本の拡張政策の理由」のレッスンプランは，「世界規模の戦争の動き」を探究する上で「拡張の理由」を題材としたものです。

もう一つの事例研究２「ドイツとイタリアの拡張政策」との関連性も図りながら，単元を作っていく必要があります。

(3)日本の高等学校歴史教育の新科目「歴史総合」とのつながり

上記でも確認した通り，「指定学習項目」単元は，高等学校歴史教育における初期段階のカリキュラム・授業の一つのモデルです。日本では新科目「歴史総合」の登場で，教師は過去の何をどのように取り上げ，生徒に歴史をどのように探究させるか，「日本史探究」や「世界史探究」とは異なるあり方や実際のレッスンプランが改めて問い直されています。

本研究で示す単元「東アジアにおける日本の拡張政策」（20時間）のカリキュラム，および「拡張の理由」（４時間）のレッスンプランに加え，これらを開発した理論的根拠は，「歴史総合」の学びを考える上でのツール（たたき台）にもなるのではないでしょうか。